

第三者ほめの機能に関する一考察

大久保龍寛 佐藤純

茨城県立医療大学

{okubota, satou}@ipu.ac.jp

1. 第三者ほめ

これまで、「ほめ」という発話行為に関して、聞き手と話し手の間でやり取りされる「ほめ」が主な関心事とされてきた (Holmes (1988) 参照). しかし、「ほめ」はその場に存在しない人物 (第三者) についても行われることがある. このような「ほめ」を古川 (2000) に倣い、「第三者ほめ」と呼び表す. 以下の例を参照されたい.

- (1) A: 竹内涼真ってかっこいいよね!
B: わかる!

(1) では, A がその場にいない人物 (「竹内涼真」) の外見に関する「ほめ」を行っている. 一見すると, このような「ほめ」は聞き手に関わりがないように思われるが, 実際には, 後述するように, 聞き手との対人距離を考慮したうえで行われる言語行動である. このような第三者ほめに関してはこれまで先行研究でとりたてて取り上げられることはなかった (古川 (2000) 参照). 本発表では, 第三者ほめは「ほめ」が潜在的に誘発する聞き手フェイスの侵害を回避するための手段として用いられるものである, と主張する.

2. 「ほめ」の機能

Holmes (1988) では, 「ほめ」はほめる側とほめられる側の対人距離を縮約する効果を持つ, とされている. その一方で, Brown and Levinson (1987) によると, 「ほめ」を行うことで, 聞き手の積極的フェイス (他者に自己を受け入れて欲しい, という欲求) と消極的フェイス (他者から距離を置きたい, 自分の自由にさせて欲しい, という欲求) の両方が同時に脅かされることになる, とされる.

相手をほめるということは, 相手を評価できる立場にある (つまり, 相手よりも, 少なくともほめの対象となっている話題に関しては, 上の立場である) ということを含意することになるため, 聞き手が話し手に対して悪感情を抱くことにつながり, 結果として話し手と聞き手の距離が拡大してしまうことになる (=積極的フェイスの侵害)¹. 一例として, 生徒が教師の授業内容や授業の進め方などをほめる状況が考えられる (川口ら (1996) 参照). 教師の中には, その立場上, 生徒よりも上の立場であるため, 下の立場である生徒にほめられることで悪感情

¹ 「ほめ」が持つこのような特徴は, 近年, 心理学の領域でも指摘されている (星 (1994: 80) 参照).

を抱く者も存在するとされる。

また、ほめられた側はほめられた事柄に対する謙遜を強いられることになるため、何者にも言動の自由を縛られたくないという欲求が満たされなくなってしまう（＝消極的フェイスの侵害）。

以上概観したように聞き手に対する「ほめ」は潜在的に聞き手の積極的および消極的フェイスの侵害につながる発話行為である。それでは、両フェイスの侵害を回避しつつも「ほめ」を行使し話し手と聞き手の対人距離を縮めるにはどうしたらよいのであろうか。

3. 第三者ほめの機能

本発表の主張は、上述の問題を解決する手段として第三者ほめがある、というものである。第三者ほめの場合、聞き手のことをほめるわけではないため、聞き手の消極的フェイスを脅かさずに済むし、話し手の方が聞き手より上の立場にあるという含意を聞き手に与えることがないため、聞き手の積極的フェイスを脅かすこともない。

このように、第三者ほめを行使することにより聞き手をほめることで生じる問題は解決されるのであるが、別の問題が生じてしまう。それは、第三者ほめでは「ほめ」の最重要機能である対人距離縮約効果が発揮されていないように見える、ということである。第三者ほめは聞き手をほめるわけではないため、一見すると話し手と聞き手の対人距離が縮まっているようには感じられない。

そこで、本発表では、第三者ほめの結果、話し手と聞き手の間で意見の一致が見られた場合に、話し手と聞き手の対人距離が縮約すると提案したい。もう一度 (1) を参照されたい。(1) では「竹内涼真」という第三者について A がほめている場面である。ここでは、聞き手である B をほめているわけではないため、「ほめ」によって両者の対人距離が縮まっているわけではない。しかし、ここで B の応答に着目していただきたい。B は A の発話に対し「わかる！」と応答することで A の意見（「竹内涼真はかっこいい」）に同意を示している。相手の意見に同意することは、Brown and Levinson (1987) によれば、積極的ポライトネスの一環であるとされる。つまり、B が A の意見に同意した結果として対人距離縮約効果が発動したと考えられるのである。

第三者ほめによる対人距離の縮約は間接的なものであるため、話し手による第三者ほめの意図を聞き手が汲み取ることができなかった場合には、両者の意見が対立し、結果として両者の対人距離が拡大してしまうこともある。

- (2) A: 竹内涼真ってかっこいいよね！
B: そうかなあ。

上例では、B が A の意見に対して不同意を示している。その結果、話し手の聞き手に近づきたいという欲求、つまり積極的フェイス、が侵害されている。このように、第三者ほめを行うことで聞き手のフェイス侵害を避けることが可能となる一方、話し手の積極的フェイスが危険にさらされることにもなる、と考えられる。

第三者ほめに関して、古川 (2000) は、新聞や小説から採取した言語データに基づき、第三

者ほめは「対象と聞き手とが直接関わらないため、話し手が聞き手との距離や力関係を「ほめ」に組み込む必要がない」としている（古川 2000: 124）。確かに、新聞や小説といった不特定多数の読み手を対象とする場合であれば、距離や力関係といった要因を考慮する必要は生じないであろう。しかし、第三者ほめは、(1) や (2) に見られるように、必ずしも聞き手（読み手）が不特定な場合に行使される発話行為ではない。聞き手を前にして第三者ほめが行使される場合には、やはり、聞き手との対人距離や力関係といった要因を考慮せねばならないだろう。

4. 結論

本発表では第三者ほめの持つ機能について分析を行った。第三者ほめはそれ自体が対人距離縮約効果を担うものではない。聞き手が第三者ほめに対して同意を示すことで対人距離が縮まるのである。

参考文献

- 川口義一、蒲谷宏、坂本恵 (1996) 「待遇表現としてのほめ」、『日本語学』第 15 卷, 13-22.
- 古川由理子 (2000) 「「ほめ」の条件に関する一考察」、『日本語・日本文化研究』第 10 卷, 117-130.
- 星一郎 (1994) 『アドラー博士の子どもを勇気づける 20 の方法』, ごま書房, 東京.
- Brown, Penelope and Stephen C. Levinson (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Holmes, Janet (1988) “Paying Compliments: A Sex-Preferential Politeness Strategy,” *Journal of Pragmatics* 12, 445-465.